

3.11 に学ぶ

今後の日本のエネルギーのあり方 — 原子力発電とどう向き合うか —

3.11 以降の社会状況を踏まえて、

- ・エネルギー問題について学習を深めたい
- ・原子力発電もきちんと考えてみたい

その様な授業に取り組みたい教師向けの教材



【特徴】

- ・生徒同士が話し合う場をもつことを重視
 - 討論・話し合いによる知識の高め合いや考えの深まりに期待。
 - 実のある話し合いのために、必要なデータや予備知識を盛り込んだ関連主題を例示。
- ・実際の学習は教師が得意とする分野・領域で自由に展開
 - それぞれの主題で学習展開の検討に必要な素材を提供。ただし、主題の学習は、「問いかけ」→「学習」→「まとめ」の流れでまとめてあり、そのままの利用も可能。
 - 理科や社会科などの担当教科や得意な分野・領域で、教師が自由に授業を組み立て。

【主題(素材のテーマ)の構成】

No	主題	概	要
1	導入	エネルギー問題への意識付け、社会科と理科での導入例。	
2	電気を届ける仕組み	電気を届ける仕組みを通して、原子力発電や再生可能エネルギーによる発電の意義や課題を知る。	
3	原子力発電のエネルギーの源	原子力発電に関する基礎的な知識を得る。福島事故を理解する上で必要な事項も補足する。	
4	放射線	放射線に関する基礎的な知識を得る。初歩的なリスク認識についても触れる。	
5	福島事故から学ぶ	福島事故及びその後の社会動向から、原子力発電の安全確保及び今後の電力の安定供給に必要なことを押さえる。	
6	今後のエネルギーの選択	原子力発電も対象に、将来社会の電源・エネルギーについて考察・討論する場を持つ。	

【教材の構成】

生徒用資料

学習展開

本文（教科書に相当）

ワークシート

生徒用資料の展開に沿って
学習のポイントを示す

関心を引き出すコラム

教師用資料
基礎的な知識、
正確なデータ・情報

原則として
2つのスライドで
完結のQ&A方式



【その他】

- 例えば、次の学習教材に示されたようなエネルギー環境教育に関する一定の学習経験を期待しています。



教科学習でエネルギー環境教育を進めるための教材。次のサイトからダウンロード可能
(<http://www.inss.co.jp/book/index.htm>)

- 開発上は中学3年生以上を想定。但し、素材をアレンジし低学年にも適用可能。

開発：教材開発プロジェクト
代表：渥美寿雄（近畿大学教授）
事務局：(株)原子力安全システム研究所
社会システム研究所
エネルギー問題研究プロジェクト
橋場 隆
Tel：0770-37-9100(代)
050-7105-0086(直)
Fax：0770-37-2008
Email：hashiba@inss.co.jp